

# 公益財団法人鎮守の森のプロジェクトにおける植樹祭と弊社の取り組みについて

内山緑地建設株式会社 関東統括部 山室 功

## 一・はじめに

「鎮守の森は後世に伝え残すべき貴重な知恵」

「東日本大震災では津波でコンクリート堤防や松林がことごとく破壊される中、深く根をはつた木々が津波の勢いを和らげ、関東大震災や阪神大震災では、大火により建物が燃える被害を食い止め、防災林として大きな役割を果たした森がありました。その森とは、かつて神社を囲むようにして存在した「鎮守の森」であり、その森は動植物などたくさんの命を育み、田畠や海、川にたくさんのミネラルをもたらす、地域と暮らしを守る自然豊かな森であります。この「鎮守の森」をモデルとした森をできるだけ多くつくることは、災害の多いこ



津波の被害から残った天照御祖神社(岩手県上閉伊郡大槌町) (写真提供: 鎮守の森のプロジェクト)

の国に生きていく私たちが、後世に伝え残さなくてはならない貴重な知恵であり、自然と共生していく教訓でもあります」(公益財団法人鎮守の森のプロジェクト 理事長 細川護熙Webページより引用)

東日本大震災後、植物生態学者の宮脇昭氏が提唱した岩手県から守り、自然資本の保全にも寄与する持続可能な開発目標(SDGs)に合致した取り組みでもある。弊社グループは鎮守の森のプロジェクトの技術部会に所属し、地域性苗木の生産や植樹計画、植樹祭の準備等の支援を行っている。本稿では、鎮守の森のプロジェクトが行っている災害からいのちを守る森づくりについて紹介する。

二・潜在自然植生による森林生態系の再生

宮脇方式による森づくりでは、播種してから二~三年育成したボット苗を植樹する。ボット苗は根

ら福島県までの被災地の沿岸三〇〇kmに盛土を瓦礫と土で築き、タブノキやシラカシなど九〇〇〇万本を植えて防潮堤の役割を担わせる緑の長城をつくるという「瓦礫を活かした森の防潮堤構想」に基づき、二〇一二年に津波から命を守る森の防潮堤をつくることを目的として一般財団法人瓦礫を活かす森の長城プロジェクトが設立され、森の防潮堤づくりが始まった。

その後、二〇一六年に現在の公益財団法人鎮守の森のプロジェクトとなり、森の防潮堤のみならず全国で災害からいのちを守る森づくりを推進している。

災害からいのちを守る森づくりは、自然環境の機能を活用したグリーンインフラとして地域と暮らしを災害から守り、自然資本の保全にも寄与する持続可能な開発目標(SDGs)に合致した取り組みでもある。弊社グループは鎮守の森のプロジェクトの技術部会に所属し、地域性苗木の生産や植樹計画、植樹祭の準備等の支援を行っている。

三・活着率九〇%を目指したボット苗による森づくり

宮脇方式による森づくりでは、基づいて計画地の立地環境に適した樹種を選定し、種ごとに割合を算定して植樹している。

センターにおいて毎年開催されており、学術的な指導による苗木づくりを体験することができる。



君津グリーンセンターでの育苗講習会の様子  
(写真提供: 鎮守の森のプロジェクト)

#### 四. 植栽基盤の整備

植樹した苗木が良好に成長するためには、良好な土壤環境になるよう植栽基盤を整備する必要がある。また、地中深くまで根を張れるように地下水位から2m以上の有効土層を確保することを目標としている。

計画地が平坦な場合は、水はけを良好にするためにマウンドを造成する。マウンドは根の伸長を阻害しないよう縮め固めずに「ほつこら」と仕上げ、土壤に養分が少ない場合は、表層土に堆肥等を漉き込んでいる。

#### 五. 植樹祭

その土地に適した苗木を用意するため、ボランティアを募つて植樹計画地の近くで自生している種子（主にどんぐり）を採種して植樹密度は1m<sup>2</sup>当たり3本を標準としているが、沿岸部、強風地、寒冷地などの環境条件が厳しいところでは密度を上げて植える場合もある。

植樹は、地元住民のほか活動に賛同して全国から集まるボランティアにより植樹祭形式で行われている。植樹祭は宮脇氏の弟子にあたる学識経験者が監修し、事前に植樹リーダー予定者（自治体職員など）を対象に研修を実施し、植



「植樹祭2016」の様子  
(写真提供: 鎮守の森のプロジェクト)



小学生の願いが込められた苗木  
大阪府阪南市立尾崎小学校にて 「植樹祭2019」  
(写真提供: 鎮守の森のプロジェクト)

#### 六. おわりに

植樹から1~2年間は必要に応じて除草を行うが、苗木が成長して地面に太陽光が入らなくなると雑草が衰退し地面に落葉が堆積するようになり、その後は基本的に管理が不要となる。

告知されるので、遠近にかかわらず、各自にあつた方法でプロジェクトに参加していただければ幸いである。

その土地に適した苗木を用意するため、ボランティアを募つて植樹計画地の近くで自生している種子（主にどんぐり）を採種して植樹密度は1m<sup>2</sup>当たり3本を標準としているが、沿岸部、強風地、寒冷地などの環境条件が厳しいところでは密度を上げて植える場合もある。

植樹は、地元住民のほか活動に賛同して全国から集まるボランティアにより植樹祭形式で行われている。植樹祭は宮脇氏の弟子にあたる学識経験者が監修し、事前に植樹リーダー予定者（自治体職員など）を対象に研修を実施し、植

鎮守の森のプロジェクトは寄付金により森づくりを行つており、苗木一本を植えるために土壤改良

山室 功●やまむろ いさお

内山緑地建設株式会社

千葉県松戸市生まれ。四年間の国内

外のホテル建築設計を経て、二〇一二

年、内山緑地建設株式会社に入社、現